

令和7年度第1回総会

第1号議案 令和6年度事業報告に関する件(案)

【はじめに】

1994年2月の設立から31年目を迎えた令和6年度は、従来のヤイロチョウ保護・調査・管理に加えて、外来種サンジャク対策を継続して行いました。また、王子ホールディングスの森林の価値を高める重点事業と連携して、四万十川から土佐湾に至る、農林水産業、観光業などとの連携を深めました。

そのため、公益社団法人の基本となる個人会員は、世代を超えた植樹事業を進めます。また、保護区の名稱を付与する特典などを加えて、新たな企業・団体会員制度の導入を検討しました。

【トラストの森の拡充と調査・保全・パトロール等の取り組み】

- 1, 4月～6月に、王子ホールディングスの協力を得て四万十ヤイロチョウの森保護区周辺で、侵略的な外来種・サンジャクの繁殖調査を行い、報告書を作成しました。また、2月にGPSを装着したサンジャクが、12月に西土佐村江川で再捕獲され、広島県から来訪中の飯田知彦氏により環境省の足輪を装着して放鳥したところ、令和7年1月に再捕獲されました。
- 2, こうした、捕獲実験の延長上に、琵琶湖博物館の天野一葉さん夫妻による、環境大臣や高知県知事の許可を得て捕獲実験などが開始されました。
- 3, 高知県森と緑の会や、高知県自然環境課の補助金を得て、8月16日～18日に、自然観察ツアーや「ヤイロチョウ60周年記念シンポジウム」をオーテピアで開催しました。
- 4, ネイチャーセンターは4月～9月は水・木を休館、10月～3月は、火・金以外を休館日としました。

【自然林再生とワンダーランドの森整備の取り組み】

- 1, 高知山の日補助金を活用して、小豆島から持参していただいた直径60センチのスズメバチの古巣を、アカショウビン用の巣箱として四万十ヤイロチョウの森に設置しました。また、ヤマセミの繁殖崖づくりや、アメゴ池の設置によるヤマセミの餌場環境の整備を進めました。森林環境税の補助金をうけて、1月4日(土)に「新春自然観察バスツアー」とヤマザクラの記念植樹を行いました。
- 2, 高知県で著しく減少が指摘されているニホンミツバチの減少や、アカトンボの減少に対する情報収集に努めました。

【企業・行政・他団体と協力した森や水辺の保全活動&PR活動】

- 1, 当協会の個人会員、企業・団体会員の制度を見直し、会員・企業・団体等のトラストの森へ「植樹する権利」や「トラスト地へのネーミング権」を特典に加えることが検討されました。

【出版活動等の強化・拡充】

- 1, 会報誌「森のしずく」は、会員への情報提供の機会を減らさないため、年4回発行しました。また、インターネット媒体によるYoutubeやFacebookなどを活用して動画配信にも取り組みました。
- 2, 「BIDER バーダー」などの商業誌の企画に協力して、ヤイロチョウについての執筆や写真提供等を行いました。

